

データ分析に基づいたeラーニング開発に向けて

オーガナイザ： 吉根 勝美（南山大学）、野崎 浩成（愛知教育大学）

過去2回の全国大会では、eラーニング教材に関わるワークショップを実施しました。前々回は、「e-Learning 教材の共有化における諸課題の解決に向けて」と題して、知識の共有という観点から、前回は、「教材データベース構築における数値情報と文字情報の整合性について」と題して、異なる種類の情報が共存する教材の使われ方という観点から、個別の教材について議論してきました。

今回は、これまでのワークショップでの議論を引き継ぎながら、eラーニングの開発時におけるデータ分析の重要性に注目します。例えば、既存の開発済み教材をeラーニング教材に転用するときは、単に教材を電子化するだけではなく、現状の教材利用状況を吟味すべきでしょう。あるいは、教材の難易度を設定するときには、教材作成者自身の判断だけではなく、テストの正答率の履歴を活用することが必要でしょう。教授方略の設計においても、教師の指導経験をそのままシステム化するのではなく、これまでの指導結果を分析すれば、受講者個人に対応した指導が可能になるでしょう。

従来は、教師個人の力量、勘や経験に依存することが多かった教育現場も、教育の情報化が進むと、勘や経験を尊重しつつも、これまでは埋もれていたデータや利用しにくかったデータを活用する教育が可能になります。教師の間で、データを可能な範囲で共有すれば、より効果的な教育が期待できます。

同世代の半数近くが大学へ進学する時代を迎え、大学教育・生涯学習におけるeラーニングによる学習支援の充実が求められています。教材共有は教育の質保証につながるとして、教育システム情報学会東海支部では、eラーニング化を前提とした学習教材の共同利用に関する課題に取り組んでおります。このプレカンファレンスでは、支部活動の一つである“eラーニング勉強会”の報告を兼ねて、教育現場にあるデータをどう分析し、eラーニングの開発にどう活用するかについて、全国大会出席の会員諸兄と共に議論します。

なお、本プレカンファレンスは、東海支部の活動を全国の会員と共有できる好機となることを願いつつ、科学研究費補助金(23300300)「計量言語学的手法を用いたコーパスからの漢字特徴量抽出と新常用漢字の教育実践的研究」および学術研究助成基金助成金(23501183)「創造的思考力訓練を目的としたeラーニングの授業設計とその教育教材の開発研究」により、共同で企画しました。

■ 開催日時：9月2日（月）9:50～11:50

■ 内容

プレカンファレンスの前半では、以下の登壇者が事例報告を行います。

「SPI 計算問題の難易度の設定に関する一提案」津森伸一（近畿大学九州短期大学）

「プレゼンテーション能力育成のためのeポートフォリオ活用」山住富也（名古屋文理大学）

「食事調査のシステム支援と活用」長谷川信（岐阜聖徳学園大学短期大学部）

「コーパスを活用した日本語教育」野崎浩成（愛知教育大学）

「レポート作成時における統計用語の使用頻度に基づく学習支援」吉根勝美（南山大学）

後半では、参加者のみなさんを交えて討論を行います。